

## 都政課題解決スタートアップピッチイベント

### UPGRADE with TOKYO

#### 第 40 回ピッチイベント 募集要項詳細

##### 【募集期間】

2024 年 9 月 11 日(水)～2024 年 10 月 2 日(水) 18 時(予定)

##### 【応募方法】

UPGRADE with TOKYO ホームページの第 40 回募集ページ(<https://upgrade-tokyo.metro.tokyo.lg.jp/theme/#theme40>)内応募フォームリンク

(<https://forms.gle/XoKvJFZPbnhZEjXS7>)より、応募されるスタートアップのピッチ登壇予定者が、応募フォームに必要な事項をご記入いただき、ピッチ素案資料と合わせてご提出をお願いします。

スタートアップのピッチ登壇予定者に対し、TOKYO UPGRADE SQUARE(TUS)の支援もご提供できるよう、応募に当たっては、メンバー登録をしていただくことを推奨します。メンバー未登録の方は、募集ページ(<https://upgrade-tokyo.metro.tokyo.lg.jp/theme/#theme40>)内の TUS メンバー登録リンク(<https://upgrade-square.jp/apply>)より、メンバーの登録をお願いします。

※TOKYO UPGRADE SQUARE(TUS)は UPGRADE with TOKYO の兄弟事業であり、行政機関×スタートアップの連携・協働を促進し、スタートアップの最適なプロダクトを社会へフィットさせることを目指す、官民連携の場を提供しています(ピッチイベントも TUS で開催中)。

スタートアップのピッチ登壇予定者に対し、TUS の支援もご提供できるよう、応募に当たってはメンバー登録をお願いしています。

<TOKYO UPGRADE SQUARE(TUS)で提供するサービス>

- コワーキング・交流スペースの利用(様々な属性のメンバーと交流できます)
- TUS オリジナルイベントへの参加(官民連携促進や事業成長に資するセミナー、パネルディスカッション、行政機関からのメンタリング等)
- 企業からの要望に応じて、スタートアップ支援の専門家により、行政機関に対する提案内容のブラッシュアップや経営課題の解決に資するアドバイスを提供

##### 【応募及び問合せ先】

都政課題解決スタートアップピッチイベント UPGRADE with TOKYO 運営事務局

E-mail: [upgrade.with.tokyo@jp.ey.com](mailto:upgrade.with.tokyo@jp.ey.com)

##### 【イベント概要】

審査を通過した 5 社のスタートアップによるピッチイベントを下記の通り開催します。

- 日時 2024 年 10 月 22 日(火) 14 時 00 分～16 時 45 分を予定(会場集合は 12 時を予定)

### ●主な内容

- 1 スタートアップによるピッチ(5社を予定)
- 2 結果発表及び審査委員講評
- 3 フォトセッション

### 【開催場所】

TOKYO UPGRADE SQUARE (新宿区西新宿二丁目6番1号 新宿住友ビル25階)

## 1. 本事業の目的

東京が抱える様々な都政課題を解決するためには、民間から生まれた画期的な製品・サービスを活用することが重要です。

そこで東京都では、スタートアップによる都政課題解決に向けた製品等のピッチや、行政機関、VCや企業等との交流の場を創出するイベントを2019年12月から開催しています。

ピッチ審査で審査委員から都政課題の解決に資すると認められたスタートアップは、事業の協働等に向けて具体的な交渉を進めるきっかけを持つことができます。

ぜひご応募ください。

## 2. 主な応募対象

応募条件は、以下のとおりです。応募には、業種の制限はありません。

応募条件に該当するか判断に迷う場合は、運営事務局までご相談ください。

- 創業後10年未満又は第二創業後10年未満であること  
(注)一般社団法人、合同会社、個人事業主等も含まれます。  
また、第二創業には、製品・サービスの新リリースや大きな改良も含まれます。
  - 応募テーマに合致した製品・サービスを有し、最新バージョンをリリースしてから5年以内であること
  - 公序良俗に反する事業を行うなど、東京都が支援することが適さないと判断した企業等ではないこと
- ※過去に本事業で優勝している場合については応募対象外とします

## 3. 応募テーマ

### 『外国籍の児童・生徒の想いに寄り添った言語サポート』(渋谷区)

コロナ禍が明け、海外から渋谷区立学校に編入してくる外国籍児童・生徒が急増しており、また彼らの母語は約15言語とバリエーションに富んでいます。特に最近の傾向としては滞在期間が一時的ではなく高校への進学等も見据えた長期的なものになっており、授業や学習場面で使用される学習言語の習得等、学校生活に困らない程度にとどまらず、より高い日本語能力の習得が求められています。

現在は、一部学校で週1～3時間程度の日本語の取り出し指導や、大学生ボランティア及び翻訳アプリ等の活用により子どもたちの支援をしています。しかし、これらの施策で対応できる範囲は限定的であるほか、より高度な日本語教育・生活サポートを求める声が高まっていることから、新たな言語支援体制を整備することが本区の課題となっています。

そこで、授業や学校生活、日常生活での支援を目的として、日本語学習・通訳サービス提供や地域住民を巻き込んだコミュニティ構築など、外国籍児童・生徒の日本での生活をより豊かにするための提案を募集します。

■期待する製品・サービスの例(下記のいずれか)

- 各児童・生徒及びその保護者に寄り添った日本語通訳・翻訳支援
  - 【通訳派遣・マッチング】必要な言語に対応した通訳者の派遣・マッチング
  - 【機械翻訳】学校からの手紙等、文書の自動翻訳等も含めたオンライン翻訳
- 各児童・生徒のレベルに合わせた、オンデマンド型の日本語学習コンテンツ
- 地域住民と外国籍児童・生徒・保護者が参画するコミュニティ形成プラットフォーム
- 生成 AI を活用した日本語学習サービス

■その他の要件

- 平日の 8:00～18:00 で利用可能なサービスをご提案ください。また、人的支援でも IT システム等を活用した支援でも可能ですが、IT システムの場合はブラウザ上で動作するものに限りです。

■参考①(国の動向)

5. 増加する外国人児童生徒等への教育の在り方について	
<p><b>(1) 基本的な考え方</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外国人の子供たちが共生社会の一員として今後の日本を形成する存在であることを前提に、関連施策の制度設計を行うことが必要</li> <li>キャリア教育や相談支援の包括的提供、母語・母文化の学びに対する支援が必要</li> <li>日本人の子供を含め、異文化理解・多文化共生の考え方に基づく教育の更なる取組</li> </ul>	
<p><b>(2) 指導体制の確保・充実</b></p> <p>① 日本語指導のための教師等の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本語と教科を統合した学習を行うなど、組織的かつ体系的な指導が必要</li> <li>日本語指導が必要な児童生徒への指導体制の充実</li> <li>日本語指導・母語による支援等の専門スタッフの配置促進と支援体制の構築</li> </ul> <p>② 学校における日本語指導の体制構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本語指導の拠点となる学校の整備と、拠点校を中心とした指導体制の構築</li> <li>集住・散在等、地域の実情を踏まえた体制構築の在り方の検討</li> <li>拠点校方式等の指導体制構築や初期集中支援等の実践事例の周知</li> </ul> <p>③ 地域との関係機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育委員会、首長部局、地域のボランティア団体、日本語教室等の関係機関との連携促進</li> <li>特に、教員養成大学や外国人を雇用する企業等との連携</li> </ul>	<p><b>(4) 就学状況の把握、就学促進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学齢期の子供を持つ外国人に対する、就学促進の取組実施</li> <li>学齢簿の編製にあたり全ての外国人の子供の就学状況についても一体的に管理・把握するなど地方公共団体の取組促進、制度的な対応の在り方の検討</li> <li>義務教育未修了の外国人について、公立中学校での弾力的な受け入れや夜間中学の入学案内の実施促進</li> </ul>
<p><b>(3) 教師等の指導力の向上、支援環境の改善</b></p> <p>① 教師等に対する研修機会の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「外国人児童生徒等教育を担う教師等の養成・研修モデルプログラム」の普及</li> <li>日本語指導担当教師等が専門知識の習得を証明できる仕組みの構築</li> </ul> <p>② 教員養成段階における学びの場の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教員養成課程における外国人児童生徒等に関する内容の位置付けの検討</li> </ul> <p>③ 日本語能力の評価、指導方法・指導教材の活用・開発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA」や外国人児童生徒等教育アドバイザーを活用した、日本語能力評価手法の普及促進</li> <li>情報検索サイト「かすたねっと」に登録する教材等の充実や検索機能の充実、多言語により学校生活を紹介する動画コンテンツの作成・配信</li> </ul> <p>④ 外国人児童生徒等に対する特別な配慮等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>障害のある外国人児童生徒等に対して、障害の状態等に応じたきめ細かい指導・支援体制の構築</li> <li>障害のある外国人児童生徒等の在籍状況や指導・支援の状況把握</li> </ul>	<p><b>(5) 中学生・高校生の進学・キャリア支援の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外国人児童生徒等の進学・就職等の進路選択の支援</li> <li>公立高等学校入学選抜における外国人児童生徒等を対象とした特別の配慮（ルビ振り、辞書の持ち込み、特別定員枠の設置等）について、現状把握、情報共有による地方公共団体の取組促進</li> <li>中学校・高等学校段階における進路指導・キャリア教育の取組促進</li> <li>取出し方式による日本語指導の方法や制度的な在り方、高等学校版JSLカリキュラムの策定の検討</li> <li>小・中・高等学校が連携し、外国人児童生徒等のための「個別の指導計画」を踏まえた必要な情報整理・情報共有の促進</li> </ul>
<p><b>(6) 異文化理解、母語・母文化支援、幼児に対する支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校における異文化理解や多文化共生の考えが根付くような取組促進</li> <li>異文化理解・多文化共生の考え方に基づく教育の更なる普及・充実、教員養成課程における履修内容の充実</li> <li>家庭を中心とした母語・母文化定着の取組の促進、学校内外や就学前段階における教育委員会・学校とNPO・国際交流協会等の連携による母語・母文化に触れる機会の獲得</li> <li>幼児期の特性を踏まえた指導上の留意事項等の整理、研修機会の確保</li> </ul>	

※「令和の日本型学校教育」の構築を目指して(答申)【概要】(mext.go.jp)

◆参考②(渋谷の教育)

令和6年度版  
**渋谷の教育** つくろう。ちがいを活かし合える、未来の学校。

新校舎でのラーニング・コモンズ イメージ図

**探究「シブヤ未来科」** “一人一人の学びベースや、一人一人の興味の先行を大事にして、自ら創る学び”

私の、渋谷の、世界の未来をつくろう。

・令和6年度から、区立全学校でスタート!  
・学びをより主体的・探究的に、より対話的・協働的に!  
→未来に求められる3つの資質・能力を育成  
**自己調整力 創造力 挑戦力**

誰もが幼児期に経験した遊びに没頭するワクワク感や好奇心、一人一人に備った自ら学ぶ力や創造性を発揮し、学んだ知識を活かして新たな知見を創造します。  
渋谷区ならではの文化、芸術、自然、先端技術など様々なリソースを生かした大変を通して、感動や疑問、興味から生じた問いを、各教科で身に付けた見方や考え方を活かして深掘りしていきます。

**グローバル体験**  
「Bad Next」から「Good Next」への転換  
異文化を理解し、国際的視野や感覚を養う機会を提供するために、フィンランド共和国とシリコン・レーへの児童・生徒派遣を行っています。

**未来の学校で大切にしたい7つの力 (渋谷区教育目標)**

基礎 探究 自律 協働 共感 創造 挑戦

全ての学びの土台となる各教科の基礎的な力を身につける  
どんな興味も大切にしたい問いを見つけ、追いかける  
必要なルールについて話し合い、必要なルールを自ら作っていく  
個性を活かし合い、話し合いながらチームワークを進める  
やったことのないことをやってみる自分、友達を、励まそう  
実えてみる。組み合わせを試みる。おもしろい、を大切に

**教育データ活用**の取組  
子供たちの小さなSOSを早期発見・早期支援するための取組  
振り返り、新たな学習や生活の記録等を活用し、子供の興味・関心や悩みを丁寧に見取り、チーム学校のもと、個々の状況にあった良さや可能性も認識できる機会を提供します。

「Bad Next」から「Good Next」への転換  
学びの内容と自己の変容を振り返り、新たな学習や生活への意欲につなげたり、他者への良さや頑張りを承認する体験を通して、自分の気づかなかった良さや可能性も認識できる機会を提供します。

**教育データ活用**の取組  
子供たちの小さなSOSを早期発見・早期支援するための取組  
振り返り、新たな学習や生活の記録等を活用し、子供の興味・関心や悩みを丁寧に見取り、チーム学校のもと、個々の状況にあった良さや可能性も認識できる機会を提供します。

**教師向けダッシュボード**  
HACHIアプリ・学習・生活の振り返り児童生徒レポート

**架け橋プログラムの実施**  
【ねらい】  
幼保小の関係者が連携し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有しながら、カリキュラム・教育方法の充実・改善を図ります。  
【内容】  
幼保小関係者の対話、架け橋期カリキュラムの開発・実践、子どもたち同士の交流等

**メタバース空間を活用した不登校支援**  
【VLP活用のねらい】  
不登校児童・生徒にとって、安心して利用できるオンラインの居場所を提供します。  
【活用方法】  
心理士への相談、不登校児童・生徒のコミュニケーションの場、ドリル学習やけやき教室相談員への質問、けやき教室のライブ配信、レクリエーション、東大先端研による不登校支援プログラム  
【成果】  
○コミュニケーションの機会の増加  
○リアルのけやき教室へのきっかけ  
○家から一歩も出なくても人と話せる機会  
○不登校支援の幅の広がり  
○何にも繋がっていない児童・生徒へのリーチ

**自然体験&集団宿泊体験 & 日本の歴史体験**  
・小4(移動教室・1泊2日)  
・小5(夏季施設・2泊3日)  
・小6(夏季施設・2泊3日)  
・中2(移動教室・2泊3日)

**シブヤ部活動改革プロジェクト**  
「渋谷スポーツ協会」(一社)渋谷スポーツ協会と連携して、スポーツや文化活動等生徒のニーズに沿った部活動を設置し、部活動を推進しています。  
また、地域の企業や外部人材とつながり、部活動の地域移行を進め、教師の負担軽減を考慮した適切な指導体制の構築に取り組んでいます。

**渋谷区独自の給食**  
区内大使館やS-SAP企業との協働による特別メニュー提供等、日本一の給食を目指しています。

**放課後クラブ**  
区内全小学校内の安全な環境で、子どもたちに楽しい放課後の時間を提供しています。探究型の学びを支援するようなプログラムも各種用意しています。

**新たな価値を創造し、イノベーションを創出する学びへの転換**

デジタルを活用した時間と空間に制限されない学びの場  
グループワーク等の目的に応じて柔軟に変化するラーニングスペース

教員による一斉授業  
一定のペースで進められた質の高い授業展開

子供主体の学び  
子供の理解度や関心の特性に応じて自分のペースで学ぶ

学年に関係なく  
学年・学期を越えたり、学年をまたいだ学び

教科ごとの  
教科目制のと  
教科ごとの指導

教科指導  
教科の本質を捉え、STEAM教科の枠組みを超えた実社会に活きる学びを

多様な人材・協働体制  
多様な職種・業種・経験・発想・ICT、ソフトウェア開発力を活かした協働体制

Teaching  
指導者のおおむね対面型で教える授業

Coaching  
子供の主体的な学びへの  
仲立ち

教室以外の選択  
教室にない子供の  
教室以外の空間で

同質・均質な集団  
教員集団や指導者集団、  
学年や教科ごとの集まり  
万端を求められる教員

教員組織  
教員集団や指導者集団、  
学年や教科ごとの集まり  
万端を求められる教員

4. 主な審査基準

次のような観点で審査し、5社(予定)を選出します。

- ・製品・サービスが上記応募テーマに合致しているか
- ・製品・サービスを用いて東京都と協働することにより、都政課題の解決に資することが見込まれるか
- ・製品・サービスに新規性・独創性があるか、ソーシャルインパクトがあるか
- ・財務状況等に問題がなく、製品・サービスの生産(提供)計画に適切性があるか

応募者全員に対し、事務局から結果を通知します。

5. 応募手続き

(1) 応募スケジュール(予定)

応募期間	2024年9月11日(水)~2024年10月2日(水) 18時
書類審査結果通知	2024年10月4日(金)頃を予定
プレピッチ審査 (ピッチイベント登壇者選出)	2024年10月11日(金)午後を予定 ※オンラインによる実施

(注) 書類審査通過者には事務局等に対するプレピッチ(オンライン)を実施していただきます。

参加方法は審査通過者に別途ご連絡いたします。

応募に当たっては、10月11日(金)午後の日程を空けておいていただきますようお願いいたします。

## (2) 提出書類

応募フォームへの記入及び公開可能なピッチ資料ドラフト版(以下の説明を含む。pdf ファイル形式。10MB 以内。)

- 製品・サービスの名称・概要
- 製品・サービスが応募テーマに合致していること
- 製品・サービスを用いて東京都と協働することが都政課題解決に資すること
- 東京都と契約する場合の内容や金額別プラン
- 東京都との役割分担
- 東京都との協働や製品・サービスの導入までの全体スケジュール

(注) 公開可能なピッチ資料ドラフト版は、少なくとも書類審査で利用します。

応募者全員が提出してください。

また、プレピッチ前、ピッチ本番前に、公開可能なピッチ資料を出し直すことができます。

## (3) 提出方法

<https://forms.gle/XoKvJFZPbnhZEjXS7> より、必要事項を応募フォームにご記入の上、ピッチ資料ドラフト版と合わせてお申し込みください。

## 6. その他

状況により、ピッチイベントをオンラインで開催する可能性があります。